

# 幾山河

## 第七號

平成6年6月1日  
発行  
社団法人 沼津牧水会

### 目次

野の中の村の	
忘れがたい歌碑	2
牧水片々(その3)	4
沼津牧水会の足跡⑥	6
牧水歌碑めぐりの旅	8
第40回牧水祭	
碑前祭・芝酒盛	10
短歌大会	11
雛の歌会	12
文化講座	13
サロン音楽の夕べ	14
平成5年度事業報告	15
定款・後記	16

# 野の中の村の忘れがたい歌碑

—— 牧水への熱い思いが輪になって ——

中尾 勇

(前三島市教育研究会長・若山牧水研究家)

平成六年三月八日、三島の桜川添いに牧水の文学碑が、三島ライオンズクラブの三十周年記念事業として建立された。大正十年六月刊の随筆集『静かなる旅をゆきつつ』中の「箱根と富士」の文章がその内容である。

この日、井上靖未亡人のふみ夫人と若山旅人先生や穂積忠のご子息の穂積忠彦さんなどが三島大社のかたわらのあめや寿司で私たちとの会食となった。珍しい旅人先生の濃い見事なヒゲの顔にびつくりしながらも、時ならぬ楽しい牧水をめぐる語りの会となった。



清水館奥庭の牧水歌碑

そのとき、沼津公園の昭和四年十月二十一日建立の「幾山河こえさりゆかば」の歌碑を第一号として、この日の文学碑を含めて全国においては幾つになるのだろうかという話になった。旅人先生からは、「百八十六か七でしょうか」というお話があった。ともかく牧水の国民的人気は静かではあるが、本当に大変なことで、歌人の文学

碑としては断然、群をぬいたものとなっている。

喜志子夫人の歌碑が全国でも十基以上にぼっているから、日本中の人々が牧水夫妻の歌風にいかに関心しているかの証になるというところで、これはとても嬉しいことである。

牧水の歌碑建立については土地の人々の熱い思いが幾重にもよりあわされる。考えただけでもジンジンとくる思いがある。

たとえば、「野の中の村」の歌碑である。裾野市須山の歌碑は昭和五十三年十一月三日除幕の第七十九番目の牧水歌碑である。

牧水は大正九年の八月十五日に沼津町在楊原村上香貫折坂に移って、その十月九日に朝起きて原稿が書けずいらいらしていたが、富士を見たいという旅心に誘われて、沼津駅から汽車にのり御殿場まで行って、雨のなかの祭礼の列を抜けて山道の大野原をぬれながら歩いて須山の清水館に泊まる。どっさりおこった炭の入った火鉢にあたりながら寒さを消そうとガブリガブリと酒をのんでいる。

朝、窓をあけて晴天に喜び、「やああれが富士よ」と感動をしつつ清水館でむすびを作ってもらった牧水は十里木まで馬子のひく馬の背にのる。十里木についてただ一軒の茶店に宿をたのんで、芒の野原の山口（現在の忠

ちゃん牧場)までひつ返して、思いっきり大自然の富士と遊んで、「裾野山口での富士が一番」と全くの自然児となって、野の花や小鳥に心を憩わせている牧水である。

大正十一年の六月四日の日には、大野原の初夏の景色に魅せられた牧水は、草鞋をはいて沼津駅から裾野駅にいたり、初夏の富士をあかずに眺めながら、須山街道を汗びっしょりで歩いていく。午後二時ごろ、野の中の清水館にたどりついて、神代杉の部屋の天井を懐かしんだり、今宵の月明の富士と明日の明方の富士はどうかと心おどらせながら酒の味をいとおしんでいる牧水である。

真日中の日蔭とぼしき道ばたに流れ  
澄みたる井手のせせらぎ

の歌以下、「大野原の初夏」とする歌、二十七首が裾野の地に残されている。

このなかの、「日をひと日富士をまともに仰ぎてこよいを泊る野の中の村」の歌が清水館の奥庭に建立された。やや変則三角形のこじんまりとした根府川石で、富士山溶岩の台座の上にすえただけの簡素なものだけに愛着の深まる歌碑である。建立された人はこの清水館の主、元富岡中学校の校長であった野田達郎氏であった。野田氏は惜しくも平成六年二月に物故された。

達郎氏の伯父さんが富士山の神様といわれた裾野市富士山資料館長の渡辺徳逸氏である。この人が牧水の高弟の大悟法利雄氏の親友である。達郎氏が「牧水先生がこの宿に二度も泊まられている」という話を長い白ヒゲで人望家の祖父佐十郎さんや当時のインテリ女性の祖母のいしさんから、幼いときから聞かされて育った。それで、須山宿としても名譽なことであるから、その記念に歌碑を作りたいたと、伯父の徳逸氏に相談をする。

徳逸氏は大悟法氏と相談をし、若山旅人先生の了解をえながら、「日をひと日」の歌を選定している。私自身、裾野東小の教頭るときに、徳逸氏が大悟法氏のサイン入りの「若山牧水全歌集」を贈って下さって、それが牧水研究のスタートになった。もう二十五年前のこととなる。

歌碑については私も早速、仲間になる。故岩崎亀裾野市長、故芹沢茂一裾野市教育長、渡辺藤男裾野市教育委員長、地元の人文化人の勝又寿氏や二ノ宮正元氏もあつという間に合流する。私は達郎氏夫人の定子さんのタランポや山菜の天プラが魅力で清水館詣でということになる。まさに牧水を中心にして人々の善意のウズがまきおこるということになる。全国でも牧水の泊ったころのたたずまいが

残されているのは今となると数が少ない。その珍しい旅宿がここ数年ならこの清水館にみられる。牧水の泊った二階の神代杉の部屋で牧水の心を偲ぶことも楽しいことである。



牧水が大正九年、大正十一年と二度泊まった大正当時の清水館

# 牧水片々（その三）



## 「君は桜か」

若山旅人

母喜志子の事も書かせて頂きたい。

母は牧水と結婚してわずかに十六年で死に別れ、それ以後の四十年を未亡人として、借金と貧乏とを残して逝った夫の後を守って、昭和四十三年に八十歳で死んだ。夫に死なれた時、十五歳をかしらに七歳の富士人まで四人の子をかかえて始まった一人暮らしだったから並大抵の苦労ではなかった筈である。

長野県松本在の村で庄屋だった家の娘として生まれたので、その誇り高い性格は持つて生まれたものとして終生変わらなかった。ただ、文学少女だった事が思いもよらぬ牧水とめぐりあいを持つわけになたし、またその姉達のすごした一生とも違う生涯を歩むことになったのである。

牧水との出逢いは勿論牧水の方からはたらきかけだったが、汽車の線路に沿った塩尻駅までの五キロばかりの赤松林の小径を歩くあいだに、殆んど初対面に等しいこの青年から求婚の大事を打明けられたのである。

一方牧水には大決心があったわけで、四年来の恋愛で出世作『別離』の成因ともなった女性との破綻後一年。再起に苦しむ自分にもっともふさわしい文学理解者と目して、東京から白羽の矢を持参した次第だったから、その熱心な自己披瀝とそれに従う説得の努力は大変なものだったようだ。

僕を救ってくれ、とも言ったらしい。その上に、僕のこととは作品などでも既に知っていると思うが、恋愛に破れてからの生活は眼を覆うばかりで酒と女に崩れてしまつて身体もよごれているし、果たして子供が生めるかどうかとも判らない現在なのだと言極言したらしい。乱暴な求婚だったが確かに正直といえはその通りの切羽つまつた懇願だった。

以上は、後年私が成人してからの母の打明け話である。よくもそれで牧水の望みが達せられたものだ、と言うと、私はお父さんのその眼に負けたんだよ、という事だった。あの澄んだ眼の持主に悪い人の居る筈は無いと思つたから、という母の答だった。一方は求婚、一方はその理解に努めた母の両人は、塩尻駅まで歩き通し、その一人は東京に帰つて行った。父は汽車の窓から新刊の『牧水歌話』を手渡した。

その扉には——今日の記念に四月二日、牧水。太田喜志様——と書かれてあり、それが兩人の結納だった。

良家の子女だった母はたったこの一日でグワンと叩きのめされた。

そしてしばらくして母は柳行李一つを持って家出同様に牧水の許に走り、新宿の酒屋二階の六畳間で世帯を持ったのである。大変な情熱が母の一生を出発させたのだった。結局、父はこの母のひたむきな情熱で救われたのだった。母が父を塩尻駅に見送ったあと、そのもとに書き送った一首がある。

かなしやな信濃の春はまだ暗し

君は桜かみやこへ帰る

や・み・く・もに出奔して父と一緒に喜志子だが、かたちの上では故郷を捨てた事になる。今更帰れないのである。収入不定の夫を支える為に獅子奮迅の働きをし、私を生んで二年目に発病して、相州三浦半島の漁村に退散する破目になった。併しそれが結果として牧水を、又一家を蘇生させる事になった。

夫婦というものは不思議なものである。十六年間の夫婦の暮らしには不思議な程のお互いの性格の調和があったらしい。片やくそまじめで悲しみと隣同士の様な母、片や楽天的で夢見勝ち酒飲みで旅好きの父、旅先からは織る様な便りを父は母宛てに出している。午前と午後と、一日に二度も投函している様な牧水には母の勝てる筈が無かった訳だ。

後年沼津に移ってから、牧水は執筆の為に土肥温泉に長逗留した儘

さっぱり帰って来ない。母は家族も増え複雑になって来た家計を支える為に自分の手に負えなくなつて癩癩を起こした手紙を夫の許に差し送ると、纏て牧水から慰めの便りが返つて来る。それには可怪おかしな絵が描かれ、真中に母が逆立ちをしている。両脇には上の姉のみさきと下の妹の眞木子が、母に並んで同じく逆立ち。三人の前には生まれたての弟富士人が紙片の様に小さく寝かされ、全部が稚拙もいゝ処馬鈴薯に手足が生えた様な四人。私は登校中で留守という含みだろう。文面が添えられている。

誰やらがひとり怒りて独り泣くひとり思へばおもしろきかも。やアやアのやつこらやアのやアなればみんな懼れてすくみざるべし。いッその事どうだみこまこまこ呼び集へしやツちよこ立ちでもやらかせやらかせエ。

というものである。文意は、そんなにキリキリしていると子供達が吃驚する。一層の事みなを集めて逆立ちでもしたらどうか。というもの。みこはみさき、まこは眞木子の事だ。母は牧水からそんな葉書が届いて、サテキリキリ舞いをしたかどうか。

円満だったが母の日記には牧水の馬鹿。などと殴り書きの跡も残つていて、結婚当時は頬の赤い角顔で美しいとは言えなかったが、死に別れてからは人も振り向く鶴のように清楚な美人になった。

私は思っている。母は父への追憶で朝夕を送り、その自意識がそうさせたのだ、と。これも夫の愛というものの一つだろう、と。

# 沼津牧水会の足跡⑥

足跡の連載も第六回目となり最終回になった。長い間、沼津牧水会の歴史を記録してくださった会員の歌人、青木朝子さんに紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて、今回は昭和五十九年から六十一年までで、六十二年からはいよいよ牧水記念館も開館の運びとなります。開館以後の活動は毎年当会の会報が発行されていますのでご一読くだされば幸甚です。

## 第三十一回 牧水祭 昭和五十九年

○短歌大会 九月三十日 午前十時三十分より

沼津市民文化センター大会議室

出詠料一、〇〇〇円

詠草数二二七首

特別選者講師 玉城 徹氏 「うた」主宰

出席者 一七〇名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

一定の温度を保つ育苗機一日すぎ早稲芽ぐみ居  
土屋百合子

市長賞(互選第一位)

嫁ぐことなくみまかりし汝が墓に簪のごとく合  
飲の咲きいづ 池田きよ枝

市議会議長賞(互選第二位)

ささやくごとく肩に触れくるコスモスを残して  
墓地の草取り終る 渡辺 綾子

教育長賞(互選第三位)

評定は長びきしならむ煙草くさき夫の背広をハ  
ンガーにかく 秋元 悦子

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

泣きやまぬ孫をおろおろと宥めめて衰へきざす  
身をかえりみぬ 芹沢 君子

観光協会会長賞(選者選第三位)

揚羽舞ひのうぜんかつら咲きし家空襲に無し夫  
征きて亡し 伊藤 雅子

沼津朝日賞(互選第四位)

長く病む母の呆けに現われて日毎やさしくなる  
父なりき 須永 秀生

マルサン賞(互選第五位)

寒色の目立つて多き吾子の絵になかくこだわり  
ねまき着せおり 上田 幸枝

山脈短歌会賞(伊藤祐輔選)

「冤罪二十九年」と力いっばい言ふ母の小さき  
体にみなぎる歡喜 横江 ふみ

東海短歌会賞(佐藤茂正選)

あからひく日射し未だし眼のかぎり蒼き試射場  
に月見草の花 齋藤 俊夫

○碑前祭 十月二十一日 午前十一時

千本松原歌碑前

庄司沼津市長・鈴木嘉一市議会議長の挨拶のあと、旅人氏の献酒・献花、大悟法氏の朗詠、沼津合唱団の「幾山河」外、短歌朗詠のあと芝酒盛(おでん・干物・地酒)、沼津太鼓、詩吟、民謡踊りなど、三百五十名参加。

## 第三十二回 牧水祭 昭和六十年

○短歌大会(生誕百年祭)

九月二十九日 午前十時より

明治史料館

出詠料一、〇〇〇円

特別選者講師 高嶋健一氏 「水壷」選者

詠草数二五四首出席者一七〇余名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

葱、卵選びつつゆく籠のうちに蚊取線香一つ買  
い足す 山田ふじゑ

市長賞(互選第一位)

癒ゆるなきわが子に爲さん術もたずあかるき窓  
に向きて写経す 植松 秀子

市長賞(互選第一位)

墜落の極限にいて子に遺す父の乱れし文字叫び  
いる 池田 幸枝

市議会議長賞(互選第二位)

療養の妻の寝息をたしかめて夜のしじまにズボ

ン繕う

藤曲 剛志

教育長賞(互選第三位)

気化したるは遠き初恋香水のびんの底ひのしみ

琥珀いろ

前田 鉄江

教育長賞(互選第三位)

下積みのままに終るも人生と思えるまでになり

て永らう

矢後 清一

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

夜風通ふ窓辺に病すすみゆく汝と聴きたるシヨ

パン忘れず

秋元 文江

観光協会会長賞(選者選第三位)

とどまりて農継ぐ三人の若者らずでに故郷の訛

をもたず

青木 初音

沼津朝日賞(互選第四位)

老いてなを来年はとて夢を持つ夫とわれとの農

のあけくれ

尾崎 操

マルサン賞(互選第五位)

氷屋の「氷」の旗のぐつたりと垂れてつくづく

八月を倦む

上田 治史

山脈短歌会賞(伊藤祐輔選)

倒産のうわさ背負いて生きて来し色褪せし服冬

の陽に干す

坂部ヨシ子

東海短歌会賞(佐藤茂正選)

氷屋の「氷」の旗のぐつたりと垂れてつくづく

八月を倦む

上田 治史

○碑前祭 十月十三日 午前十一時

千本松原歌碑前

庄司市長、立木栄一議長のあいさつのと旅人

氏の献花・献酒、大悟法氏の朗詠、沼津合唱団

の幾山河他に加えて百年祭ということで、花柳

稔氏の日本舞踊が披露された。つづいて芝酒盛  
(沼津太鼓、詩吟、民謡踊りなど例年通り多彩)  
おでん、干物も例年通り。約四百名参加。

牧水祭碑前祭参加者を沼津仲見世商店街振興組  
合(理事長 後藤成夫)は仲見世大茶会へ招待  
した。(会場 ほさかギヤラー中庭)

十月三日から始まった仲見世感謝祭を十月十三  
日碑前祭まで会期延長した。

### 第三十三回 牧水祭 昭和六十一年

○短歌大会 十月五日 午前十時三十分より

青少年教育センター

出詠料一、〇〇〇円

詠草数 二二六首

特別選者講師 玉城 徹氏 「うた」主宰

参加者 一六〇名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

あるは耐へあるはくずおれし折折を夫は知りに

む逝きて十年

遠藤あい子

市長賞(互選第一位)

逝きし姑も看とりしわれも美化されて語られて

をりけふ七七忌

前田 鉄江

市議会議長賞(互選第二位)

刈り終へし田の面に風の渡りきて稲架に乾ける

稲穂が匂ふ

米山 笑子

教育長賞(互選第三位)

もしかして待ちぼうけかも夕映えの空逆光にフ

オーク型の裸樹

板垣 晴巳

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

牧水が詠みと伝う湯の町の桜の古木紅く芽吹き

ぬ

馬場 凌心

観光協会会長賞(選者選第三位)

俯瞰せば港を囲む突堤がひとの腕のごとくに優

し

定石 米

沼津朝日賞(互選第四位)

青刈りの稲あぜ徑に踏まれるて稚き穂より滲む

乳色

向笠 律子

マルサン書店賞(互選第五位)

諾えぬ心隠して見送れる子の背を追いて揚羽蝶

舞ふ

山中さち子

東海短歌会賞(佐藤茂正選)

コアラの仔生れて早く死にたりと人の水子に勝

り惜しまる

小野 徳司

山脈短歌会賞(伊藤祐輔選)

靖国の社に付ては南溟に果てし兵らのざわめき

聞ゆ

諏訪部由美子

○碑前祭 十月十二日 午前十一時

千本松原歌碑前

渡辺朗市長・武藤貞夫議長のあいさつにつづき

旅人氏の献酒・献花、大悟法氏朗詠、沼津合唱

団の幾山河他のおでん、干物を肴に芝酒

盛へうつる。沼津太鼓、詩吟、民謡踊りなど：

。三百名参加。

林会長より、五年越しの悲願が実り、去る九月

二十五日沼津市若山牧水記念館の着工式が行わ

れた報告と感謝のことばがあった。

# 牧水歌碑めぐりの旅

期 日…平成5年11月13日(土)～11月14日(日)

場 所…群馬県利根郡利根村老神温泉

参加者…会員 14名 非会員 21名

コース…1日目

沼津—東名自動車道—関越自動車道—水沢観音

—竹久夢二記念館—老神温泉牧水歌碑(泊)

2日目

老神温泉—沼田舒林寺—小諸懐古園、牧水歌碑—

—八千穂(土牛素描館)—中央自動車道—甲府精

進湖道路—富士—沼津

十一月十三日(土)・十四日(日)の二日間にわたって、牧水会の四十年記念の旅を行いました。午前七時に沼津駅北口を出発、東名から環状八号を通って練馬から関越自動車道を高崎へ。昼食は水沢観音前の水沢うどん。大きな舞茸の天麩羅に食傷気味。夢路の記念館は時間がないのにオルゴール館まで楽しんで、おかげで老神温泉の牧水の碑は薄暮の中の観賞になってしまいました。老神温泉は山楽荘に宿泊。いい温泉でした。朝の朝市、当日が今年度の最後の朝市とかで、気つ風のいい小父さんのおまけに魅かれて大部買い込んだ方もいたよう

す。二日目は、沼田へ出て、舒林寺の唐傘の碑を見物。本堂の前の大きな銀杏が印象的でした。風が吹くとポトンと銀杏が落ちて来て拾って来たい向きもあつたようでしたが、バスの中が匂いそうで遠慮してもらいました。暮坂峠は大型のバスでは無理と言うことで、急遽予定を変更して関越を藤岡まで戻り、そこから上越自動車道に入って、富岡から妙義山の下を軽井沢から追分へ出て小諸というコースを走る。懐古園の牧水の歌の刻まれた石垣を見て昼食。ついでに小諸の牧水が長逗留した田村病院の歌碑などを見たいと思つたのですが、あいにく連絡をしておかなかつたこともあつて、留守で見ることが出来ませんでした。田村病院は、昔のままのたたずまいで残されていて、大きな鉄の門に鍵がかかっている、庭を覗いた限りでは荒れ果てているように見えました。八千穂の奥村土牛素描館は建物もなかなかの見物で好評だったようです。素描館前での全員の記念撮影をし、バスは一四一号线を南下し、信州、甲州を経て駿河に入り、十九時沼津到着。二日間の楽しい牧水ツアーも無事終了、解散となりました。(須永)







かたはらに 秋ぐさの  
花かたるらく  
ほろびしものは  
なつかしきかな

(懐古園牧水歌碑)



かみつけの  
とねの郡の老神の  
時雨ふる朝を  
別れゆくなり

(舒林寺牧水歌碑)

軒瓦うちし雨音たえまなし秋の夜更の老神の宿

金子 安夫

思う様空に伸びたる妙義山あま天行く鳥の宿となるらん

田中 善松

我が老いに叶う名前や老神の小雨の日暮に歌碑を見しかな

時雨降る夕べ老神に牧水の石文を読む遠く来たりて

新井 静穂

舒林寺の銀杏散りくる境内に唐傘の牧水歌碑はありたり

懐古園古城苔むす石垣の大石に彫られ牧水の歌は

舒林寺の沙羅樹のかたわらに十三仏塔の寂々とたつ

牧水の歌碑を尋ねる旅の今日煙る霧雨明日も雨らし

老神の牧水の碑は薄暮の中近づきて歌詠み返しけり

田中 千代

たのしかったです。うたはよくわからない。訳すところがってくるから。  
絵はよくわかりました。みんな親切でたのしかったです。

外人教師 パメラ

# 第40回沼津牧水祭 碑前祭・芝酒盛



開催直前まで雨が降り続き、大変心配されたが、突如として雨も止み秋日が射し始めた。そして、恒例の第四十回沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛が十月十七日(日)午前十一時から千本浜公園の牧水歌碑前にて盛大に行われた。東海庵青龍氏の献茶に始まり、林茂樹理事長の挨拶、桜田光雄市長・五月女武教育長・渡辺邦彦宮崎県東郷町教育長の祝辞に続き、若山旅人氏が献酒、献花をし、挨拶をされた。「全国百七十余の牧水歌碑がある中で、ここ千本浜の幾山河の歌碑が第一号であり、昭和三年に父が他界すると、早速、弟子鈴木俊一さんが目をつけていた富士山裾野の大石を運んでコロを使い馬と人力で三日がかりでこの地に運んだ。」と歌碑建立のいきさつを話された。そして「第四回目の刊行となった若山牧水全集が地元増進会出版社から発刊、成功されて居る。」ことも披露された。花柳稔師の舞踊、中学生短歌コンクール表彰、沼津合唱団の合唱と金子理事の司会でスムーズに式典も終わり、太鼓、詩吟が演じられる中、賑やかに芝酒盛となり、約七百人の参加者が秋の午後のひとときを楽しんだ。

## 第四十回

# 沼津牧水祭短歌大会

本年度の沼津牧水祭短歌大会は、十月二十四日（日）に新築の沼津市立図書館視聴覚室において「青藍」の島田修二氏を招聘して行われた。投稿歌数三〇一首、参加者一八〇名。歌会に先だって、島田氏の「牧水と現代短歌」と題する講話が一時間持たれた。さまざまな歌人が話題に上るが、本来の意味で顧みられなければならない歌人は、白秋と牧水と夕暮で、白秋のことばの微妙な働き。牧水ののびやかな声調。夕暮の調べの追究などもっと評価されていいのではないか。と言うところから、現代短歌の方向、人間の存在を歌一首に凝縮していく手法の是非などに触れて話された。午後は歌評を出席者全員の作品について行われ、大変な御苦勞をおかけした。評に先立ち全体の作品を読んだ感想として、次の三点を指摘された。ある意味では静岡県東部地区の多くの歌詠みたちに共通の問題点と思うので紹介しておく。

- ① 説明的な事柄を述べただけの作品が多い。
- ② 人情的・自己陶醉形の作品が見られる。人情にかかわらないと歌は成立しなが、そこに安住してしまうと進歩はない。
- ③ 作品が平明なこと、品格のある歌が多く見られた。

この平明さという指摘、①②の裏返しとも言え

て、併せて今後の私たちの問題だと感じた。

選者賞と互選賞の上位入賞者は次のとおり。

○ 牧水賞一席

真向かいて犬に注射する獣医師は声も優しく顔になる  
補陀 周子

○ 牧水賞二席

人垣よりわれを見つめてうなづきし妻を知りつつ歩調乱さず  
仲村 正男

○ 牧水賞三席

現身の夫に云うごと墓に来て寒くはないかと氷雨みている  
高嶋 當

互選賞

○ 市長賞

去りし息子のことには触れず風鈴の細き音色を夫と聞きおり  
石丸登美子

○ 市議会議長賞

潮の香も背負ひ乗り来て行商のをみなが声を弾ませ笑ふ  
池田 幸恵

○ 教育長賞

シヨベルカーのひと掬いごと身を削る思い切なくわが田失せゆく  
山下 久代

○ 商工会議所会頭賞

いさかひしのちの息子の気遣ひになほも孤独のふかまりてゆく  
土屋さち子

○ 観光協会会長賞

予科練の明け暮れ熱く語るとき髪白き君少年兵

めく

○ 沼津朝日新聞社賞

わが戦後なほも続かむ兵の日に打たれし耳の癒ゆるあてなく  
佐藤 光敏

○ マルサン書店賞

大病後ものみなあらたに見ゆる日日生きるよろこび小松菜を蒔く  
高橋 英子

（須永秀生）



島田修二氏の講演

# 第六回 雛の歌会

平成6年3月5日 午後1時30分

沼津市若山牧水記念館 会議室

講師：花山 多佳子 氏



沼津牧水会の雛の歌会は第六回を数え、今回は花山多佳子さんを講師に迎えて三月五日の午後、沼津市若山牧水記念館において行われた。出詠歌数八十首、出席者四十五人。

司会は須永秀生氏が担当し、上田治史氏の挨拶と、続いて昨年出版の花山さんの第四歌集「草舟」は高い評価を得ており「歩みゆく夜の前方にパスは止まりほろほろとこぼれゆく人ら見ゆるも」のごとく何気ないものに目を向け、日常の素材をそのまま素直に歌っている。……と上田さんは講師が座になじむまでの間、親しみ易く花山さんを紹介した。以下、花山さんは精力的に出席者の作品すべてに適切な短評をくだされ、充実した二時間余を過ごすことが出来た。次に選者選の五首と互選上位七首を紹介する。

## 選者選五首

ひとり居のさにわに芽ぶく山椒も君逝きしあとつむこともなき

土屋志げ子

尾根越のふる里の山仰ぎ見ぬ消ゆる事なき山裾の家

植田 イセ

テトラポット並ぶ海岸の潮だまりほのかに赤きこ蟹うごくも

渡辺たつ子

うす紙の幾重を解けば子の遺す雛のやさしき面輪いできぬ

芳園やよい

たまさかのひとり居なれば落ちつかず裁ちかけの布説みさしのふみ

前田 鉄江

## 互選七首

手のひらの上で豆腐はくずれたり言い返すことば探せぬままに

浦陀 周子

少年の手元ふきあく潮風が思いのままに凧をおよがす

塩川 立子

たまさかのひとり居なれば落ちつかず裁ちかけの布説みさしのふみ

前田 鉄江

春シヨールさりりとはずしてたたむ人の手もとみている列車に揺れつつ

川辺 典代

生き生きとホタルの飼育語りある君の瞳は夢にかがやく

福西美枝子

肌白きかぶらの酢漬さくさくこの歯もて食む朝しづかなり

山形てい子

生きて在れば今日金婚式やわらかに障子透かせて陽光がつつむ

塩谷千鶴子

# 文化講座



## ◀ 第一回文化講座

「恋になく源氏物語の女達」

平成5年5月22日(土) 14:00～

記念館会議室

日本ペンクラブ会員 小野力蔵氏

## ▶ 第二回文化講座

朗読とギターの夕べ

小川未明「赤いろうそくと人魚」

平成5年11月20日(土) 18:30～

記念館ラウンジ

朗 読 伊藤弘子さん

ギター 松本平行さん



## ▶ 第三回文化講座

「恋愛と表現」

平成6年3月19日(土) 14:00～

記念館会議室

沼津国立高専教授 鈴木邦彦氏

## ▶ チャリティコンサート

平成5年6月26日(土) 18:30～

記念館ラウンジ

諸星夫妻とコール舞たち



サロンの音楽の夕べ



▲11弦と6弦によるギター

イヨラン・セルシェル

5月23日(日) 18:00~ (伊藤千里撮影)



▲ジャズピアノ

本田竹曠 7月18日(日) 18:00~



▲チェンバロリサイタル

桑形亜樹子 10月9日(土) 18:00~

(伊藤千里撮影)



▲弦楽四重奏団

安田謙一郎 12月11日(土) 18:00~

(伊藤千里撮影)



▲シリーズ〈日本のギタリスト〉III

渡辺香津美 3月23日(日) 18:00~

(伊藤千里撮影)

# 平成5年度事業報告

総会 5月14日(金) 19:00~20:30

理事会 第1回 4月27日(火) 17:30~19:30  
第2回 6月25日(金) 18:00~19:30  
第3回 9月3日(金) 18:00~19:00  
第4回 11月12日(金) 18:00~20:30  
第5回 12月12日(日) 18:00~19:00  
第6回 3月6日(日) 17:30~20:30

館報発行

第11号 5年10月1日  
第12号 6年3月1日

会報発行

第6号 5年6月1日

## 調査研究事業

牧水会40周年「牧水歌碑めぐりの旅」

5年11月13日(土)~14日(日) 35人参加

群馬老神温泉牧水橋歌碑、沼田舒林寺歌碑、  
暮坂峠牧水詩碑、小諸懐古園歌碑

「東京牧水会」への参加 宮崎県東京ビル 9月11日(土)  
須永理事、青木理事

## 沼津牧水祭(第40回)

短歌大会 5年10月24日(日) 10:30~ 沼津市立図書館視聴覚室

講師 島田修二先生 出詠300首 参加約180人

碑前祭 5年10月17日(日) 11:00~ 千本浜公園歌碑前 参加約700人

## 文化行事

講演 5年5月22日(土) 14:00~ 記念館会議室

講師 小野力蔵先生 「恋になく源氏物語の女達」

講演 5年10月24日(日) 10:30~ 沼津市立図書館視聴覚室

講師 島田修二先生 「若山牧水と現代短歌」

朗読とギター 5年11月20日(土) 18:30~ 記念館会議室

伊藤弘子さんと松本平行さん「赤いろうそくと人魚(小川未明)」

雑の歌会 6年3月5日(土) 13:30~ 記念館会議室

講師 花山多佳子先生 出詠80首 参加45人

講演 6年3月19日(土) 14:00~ 記念館会議室

講師 鈴木邦彦先生 「恋愛と表現」

## 中学生短歌コンクール

募集 5年7月5日(月)~9月15日(水)

応募 648首(7校 648人)

入選短歌 特選10首 入選57首

碑前祭にて特選者を表彰、作品を披露

## 特別企画

牧水歌碑拓本展

開催期間 5年10月19日(火)~24日(日) 市立図書館4階

## 音楽イベント 記念館ラウンジ

イヨラン・セルシエル 11弦と6弦によるリサイタル 5月23日(日) 18:00~

諸星夫妻とコール舞たち チャリティーコンサート 6月26日(土) 18:30~

本田 竹曠 ジャズピアノ 7月18日(日) 18:00~

桑形亜樹子 チェンパロの昨日・今日・明日 10月9日(土) 18:00~

安田謙一郎 弦楽四重奏団 12月11日(土) 18:00~

渡辺香津美 シリーズ・日本のギタリストIII 3月13日(日) 18:00~

## 社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、社団法人牧水会という。
- 第二条 この法人は、事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短歌文学の普及を図り、もつて、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会及び文学講座の開催
- (4) 文学に関する各種出版物の刊行
- (5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人の会員は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は法人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は法人
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、総会の議決をもって推薦された者
- 第六条 会員にならうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
- 第七条 この法人の入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 2 この法人の会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 年額 五、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 年額 一〇、〇〇〇円以上

〈理事長〉 林 茂樹  
 〈副理事長〉 大河原二郎 杉山光男  
 〈理事〉 上田治史 佐藤英之助 河本與司 幸  
 浅井 治 保坂輝夫 田中和男 寺田桂子  
 川口和子 青木朝子 須永秀生 金子安夫  
 〈監事〉 四方一彌 八十濱俊一

## 編集後記

会報第七号を五月の薫風と共に会員の皆様にお届け出来ることを喜びとしています。

牧水と須山清水館について「野の中の忘れがたい歌碑」と題して中尾先生に今回も興味深い原稿をいただきました。「牧水片々」（その三）と続く旅人館長の散文は、母喜志子さんと子供達のことを書かれ、楽しい読み物となりました。そして「沼津牧水会の足跡」⑥も最終回となり、惜しまれつつ完結となりました。「牧水歌碑めぐりは」第40回牧水祭の記念行事として計画されたものです。恒例の牧水祭の碑前祭・短歌大会、雑の歌会、音楽イベント、文化講座と各行事も成功のうちに終了しました。なお、原稿を寄せられた方々、イベントに積極的に協力くださった会員の方々に誌上をかりて厚くお礼申し上げます。

（佐野利夫）

